



平成27年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年3月13日
東

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所
 コード番号 3662 URL <http://www.a-tm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 光岡 昭典 (TEL) 052-527-3091
 四半期報告書提出予定日 平成27年3月13日 配当支払開始予定日 平成27年4月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年7月期第2四半期の連結業績(平成26年8月1日～平成27年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年7月期第2四半期	6,857	18.4	1,024	113.2	1,060	115.5	682	156.0
26年7月期第2四半期	5,790	—	480	—	492	—	266	—

(注) 包括利益 27年7月期第2四半期 688百万円(166.8%) 26年7月期第2四半期 258百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年7月期第2四半期	70.48	69.77
26年7月期第2四半期	27.74	27.24

(注) 当社は平成25年7月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年7月期第2四半期	6,484	4,819	72.9
26年7月期	5,504	4,198	75.1

(参考) 自己資本 27年7月期第2四半期 4,724百万円 26年7月期 4,131百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年7月期	—	10.00	—	10.00	20.00
27年7月期	—	10.00	—	—	—
27年7月期(予想)	—	—	—	—	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年7月期の期末配当予想につきましては、現在未定です。

3. 平成27年7月期の連結業績予想(平成26年8月1日～平成27年7月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	24.6	1,700	17.0	1,700	15.6	1,080	33.7	111.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年7月期2Q	9,683,000株	26年7月期	9,674,600株
② 期末自己株式数	27年7月期2Q	一株	26年7月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年7月期2Q	9,676,351株	26年7月期2Q	9,602,188株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

国内のインターネットを取り巻く市場は、インターネットの利用者数が平成26年3月時点で1億44万人（前年同期比392万人増）に達しており、継続的に拡大を続けております（総務省「平成25年通信利用動向調査」平成26年6月公表）。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成26年末時点で携帯電話契約数は1億4,505万件（前年同月比1.5%増）（社団法人電気通信事業者協会公表）、うちスマートフォン契約数は6,544万件、全体の52.3%に達しました（MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測」平成27年2月公表）。

このような状況の下、エンターテインメント事業では新規ゲームアプリをリリースし、既存スマートフォンアプリの効率的な運用に注力してまいりました。一方、ライフスタイルサポート事業では各サービスの機能やSEO（注）の強化等、ユーザビリティやカスタマーサポートの品質向上に注力しながら、繁忙期に向けてのプロモーションやブランディング強化を実施してまいりました。

（注）SEOとは、「Search Engine Optimization」の略で、検索エンジンの検索結果として上位表示されやすいようにサイトを最適化することでありませう。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は6,857,185千円（前年同四半期比18.4%増）、営業利益は1,024,433千円（前年同四半期比113.2%増）、経常利益は1,060,967千円（前年同四半期比115.5%増）、四半期純利益は682,033千円（前年同四半期比156.0%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、スマートフォンアプリの企画・開発・運営、グリー株式会社との協業によるソーシャルゲームの運営を行っております。

スマートフォンアプリにつきましては、平成26年12月に新規タイトル「ユニゾンリーグ」（新感覚リアルタイムRPG）をリリースしたほか、既存の主要3タイトルである「ダークサマナー（Dark Summoner）」、「ダービーインパクト」及び「レギオンウォー（War of Legions）」が引き続き利益率の高いタイトルとして寄与し、エンターテインメント事業は四半期で過去最高の売上を達成いたしました。

新規タイトル「ユニゾンリーグ」は、リリース直後から計画を上回る売上で推移し、エンターテインメント事業のセグメント売上を大きく引き上げるタイトルとなりました。既存タイトルのうち、「ダービーインパクト」は国内売上のみで過去最高の四半期売上を達成し、さらに平成26年10月にリリースした「ダービーインパクト」の繁体字版（香港、台湾、マカオ向け）が加わり、収益への貢献度が増しております（「ダービーインパクト」の繁体字版はパブリッシャーより分配される収益を売上として計上しております）。

グリー株式会社との協業によるソーシャルゲーム「AKB48ステージファイター」につきましては、これまで同様にグリー株式会社のタイトルとして「GREE」の中で提供され、当社グループはグリー株式会社から分配される収益を売上として計上しております。

平成26年1月に設立した、NHN Entertainment Corporation（本社：韓国）との合弁会社である株式会社Ateam NHN Entertainmentにおいては、引き続きメッセージングプラットフォーム向けタイトルの企画・開発を進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,398,141千円（前年同四半期比8.7%増）、セグメント利益は1,048,000千円（前年同四半期比103.7%増）となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、日々のサイトの改善、プロモーション活動などにより順調に利用者を増やし、引越し比較・予約サイト（「引越し侍」）、車査定・車買取サイト（「ナビクル」）は同業他社との競合が激化する中、継続して業界トップクラスのシェアを維持しております。

「ナビクル」は消費税増税後の反動減から復調し、1月は過去最高の月次売上を達成いたしました。「引越し侍」は着実な運用を基盤にTVCMや人気お笑い芸人を起用したラジオCM等が奏効し、順調に利用者数を増やし、シェアを拡大してまいりました。また、「すぐ婚navi」を中心としたブライダル事業は、人気俳優を起用したTVCMを放映し、引き続きブランディング強化に注力してまいりました。

新たな事業領域でのサービスであるキャッシング・カードローン総合検索サイト「ナビナビキャッシング」や自

転車通販サイト「cyma-サイマー」につきましては、引き続きサイト改善やユーザビリティの向上等、様々な施策に取り組みながら利用者数を増やしております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,459,043千円（前年同四半期比29.8%増）、セグメント利益は359,559千円（前年同四半期比9.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は6,484,603千円となり、前連結会計年度に比べ980,017千円増加いたしました。これは主に、有価証券の増加530,200千円及び売掛金の増加496,490千円によるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,664,803千円となり、前連結会計年度に比べ359,022千円増加いたしました。これは主に、未払金の増加356,233千円によるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は4,819,800千円となり、前連結会計年度に比べ620,995千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加585,287千円によるものであります。

④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、2,194,224千円（前年同四半期比22.2%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は477,095千円となりました。これは主に、売上債権の増加496,490千円及び法人税等の支払額335,434千円があったものの、税金等調整前四半期純利益1,075,120千円、未払金の増加額351,406千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は610,484千円となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入368,594千円があったものの、有価証券の取得による支出500,000千円、投資有価証券の取得による支出324,286千円及び無形固定資産の取得による支出140,869千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は93,087千円となりました。これは主に、配当金の支払額94,772千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

引き続き「今から100年続く会社」を目指して、「エンターテインメント事業」と「ライフスタイルサポート事業」をバランスよく伸ばすことで、一定の成長性を確保しながらも経営基盤の安定を図ってまいります。

上期のエンターテインメント事業におきまして、新規タイトルの「ユニゾンリーグ」が計画を上回る推移となりました。一方、その他新規タイトルのリリース時期の見直し等があった為、売上は計画をやや下回ったものの、計画に織り込んでいた費用の未消化により、利益は計画を上回る推移となりました。この結果、上期の売上はほぼ計画通り、利益は計画を大幅に上回る着地となりました。

下期におきまして、新規タイトル「三国大戦スマッシュ！」(スマートフォン向け爽快ひっぱり大戦アクション)他のリリース及び「ユニゾンリーグ」の海外展開を予定しておりますが、リリース前のタイトルに関しまして不確実性が高い為、本資料発表日現在においては売上寄与を保守的に算定しております。利益に関しましては、「ユニゾンリーグ」で数億円規模のプロモーションを予定しており、その費用を計画に織り込んで算出しております。なお、人員計画において、技術者不足を解消するために積極的な採用活動を継続しておりますが、大幅な人員の増加は想定しておりません。

以上を勘案したエンターテインメント事業の通期売上・利益は、計画通りの着地となる見込みであります。

ライフスタイルサポート事業におきましては、引越し比較サイト(「引越し侍」)、車査定・車買取サイト(「ナビクル」)、結婚式場情報サイト(「すぐ婚navi」)、及びキャッシング・カードローン総合検索サイト(「ナビナビキャッシング」)、自転車通販サイト(「cyma-サイマー」)5つのメインサービスそれぞれが計画比で若干の増減があると予想されるものの、ライフスタイルサポート事業全体を通しては計画通りの着地となる見込みであります。

以上を踏まえた平成27年7月期通期の連結業績予想につきましては、平成26年9月12日発表の連結業績予想と同一であります。

上記の将来に対する記述、連結業績予想数値は本資料発表日現在において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。エンターテインメント事業においては、グローバル化が進む中、急速に変化するマーケット及び当該資料発表日以降にリリース予定の新規タイトルは不確実性が高いため、業績が大きく乖離する可能性があります。ライフスタイルサポート事業においては、単年度の利益よりも一定のシェアを確保することを重視する点及び競合サービスとの競争激化も勘案し、緩やかな成長を見込んでおります。

平成27年7月期 通期業績見通し(平成26年8月1日～平成27年7月31日)

売上高	15,000百万円(前連結会計年度比 24.6%増)
営業利益	1,700百万円(前連結会計年度比 17.0%増)
経常利益	1,700百万円(前連結会計年度比 15.6%増)
当期純利益	1,080百万円(前連結会計年度比 33.7%増)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,217,390	1,991,785
受取手形及び売掛金	1,229,868	1,726,358
有価証券	169,451	699,651
たな卸資産	79,858	31,114
その他	354,765	514,550
貸倒引当金	△17,206	△12,056
流動資産合計	4,034,126	4,951,404
固定資産		
有形固定資産	120,359	116,875
無形固定資産	355,447	492,153
投資その他の資産		
投資有価証券	519,819	488,902
敷金及び保証金	328,355	308,810
その他	151,406	131,315
貸倒引当金	△4,929	△4,858
投資その他の資産合計	994,652	924,170
固定資産合計	1,470,459	1,533,199
資産合計	5,504,586	6,484,603

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	55,337	60,618
未払金	660,431	1,016,664
未払法人税等	283,055	338,264
販売促進引当金	13,640	18,356
その他	293,315	230,898
流動負債合計	1,305,780	1,664,803
負債合計	1,305,780	1,664,803
純資産の部		
株主資本		
資本金	530,797	531,640
資本剰余金	504,597	505,440
利益剰余金	3,094,876	3,680,164
株主資本合計	4,130,271	4,717,244
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	933	7,555
その他の包括利益累計額合計	933	7,555
新株予約権	67,600	95,000
純資産合計	4,198,805	4,819,800
負債純資産合計	5,504,586	6,484,603

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年1月31日)
売上高	5,790,501	6,857,185
売上原価	1,167,761	1,055,330
売上総利益	4,622,739	5,801,854
販売費及び一般管理費	4,142,169	4,777,420
営業利益	480,569	1,024,433
営業外収益		
受取利息	317	16,313
為替差益	11,022	35,751
受取補償金	—	18,525
その他	2,047	3,212
営業外収益合計	13,386	73,803
営業外費用		
支払利息	192	166
持分法による投資損失	845	29,628
その他	563	7,474
営業外費用合計	1,601	37,269
経常利益	492,354	1,060,967
特別利益		
投資有価証券売却益	—	37,544
特別利益合計	—	37,544
特別損失		
減損損失	33,637	23,390
特別損失合計	33,637	23,390
税金等調整前四半期純利益	458,717	1,075,120
法人税等	192,325	393,086
少数株主損益調整前四半期純利益	266,391	682,033
四半期純利益	266,391	682,033

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	266,391	682,033
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,265	6,622
その他の包括利益合計	△8,265	6,622
四半期包括利益	258,126	688,656
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	258,126	688,656

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	458,717	1,075,120
減価償却費	98,017	94,148
減損損失	33,637	23,390
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△14,946	△5,221
受取利息及び受取配当金	△319	△16,313
支払利息	192	166
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△37,544
売上債権の増減額(△は増加)	△177,612	△496,490
たな卸資産の増減額(△は増加)	△16,258	△48,217
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,053	11,080
未払金の増減額(△は減少)	308,304	351,406
その他	68,301	△158,593
小計	743,980	792,935
利息及び配当金の受取額	319	19,761
利息の支払額	△192	△166
法人税等の支払額	△489,765	△335,434
営業活動によるキャッシュ・フロー	254,341	477,095
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△500,000
有形固定資産の取得による支出	△32,440	△20,550
無形固定資産の取得による支出	△78,735	△140,869
投資有価証券の取得による支出	△481,050	△324,286
投資有価証券の売却による収入	—	368,594
その他	△28,204	6,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△620,430	△610,484
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	5,072	1,685
配当金の支払額	△94,991	△94,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	△89,919	△93,087
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,566	33,859
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△444,443	△192,616
現金及び現金同等物の期首残高	2,240,777	2,386,841
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,796,333	2,194,224

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年8月1日至平成26年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	ライフスタイル サポート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,126,401	2,664,099	5,790,501	—	5,790,501
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,126,401	2,664,099	5,790,501	—	5,790,501
セグメント利益	514,593	327,355	841,949	△361,379	480,569

(注) 1. セグメント利益の調整額△361,379千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては31,791千円であります。

また、「ライフスタイルサポート事業」セグメントにおいて、連結子会社が保有している固定資産のうち、事務所移転に伴い除却することになったものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間においては1,845千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年8月1日至平成27年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	ライフスタイル サポート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,398,141	3,459,043	6,857,185	—	6,857,185
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,398,141	3,459,043	6,857,185	—	6,857,185
セグメント利益	1,048,000	359,559	1,407,559	△383,126	1,024,433

(注) 1. セグメント利益の調整額△383,126千円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、当社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,390千円であります。

(重要な後発事象)

株式分割

当社は平成27年3月13日に開催された取締役会において、株式分割による新株式の発行の決議を次のとおり行っております。

(1) 株式分割の目的

当社の最近の株価および取引高の動向を踏まえ、株式分割により、投資単位当たりの金額を引き下げ株式の流動性を高め、より投資しやすい環境を整えることで投資家層の拡大を図ることを目的としております。

(2) 分割により増加する株式数

普通株式 9,683,000株

なお、上記の増加株式数は、当第2四半期連結会計期間末日現在の発行済株式総数を前提に算定しています。

(3) 分割の方法

平成27年5月1日付をもって、平成27年4月30日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたします。

(4) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年8月1日 至 平成26年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年8月1日 至 平成27年1月31日)
1株当たり四半期純利益金額	13.87円	35.24円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13.62円	34.89円